

編集後記

第4号を読者諸賢にお届けします。

『日中語彙研究』を創刊してから丸三年になりました。大きな躍進を遂げたとは言えませんが、読者諸賢のご支援・ご鞭撻の下で、少しずつ成長してきています。

第4号の論文として、橋本永貢子教授の「中国語の量詞「条」と日本語の助数詞「本」の多義的ネットワーク」、侯仁鋒教授等の「日本の中国語教育初級段階語彙表についての考察」という研究論文があります。どれも著しくユニークで、研究方法から見ても、著者の観点から見ても、非常に読む価値があるものでしょう。辞書についての論文は田蔵・徐英東両氏の『現代漢語詞典』第6版の音声と音韻について」を掲載しました。本誌第3号掲載の田忠魁教授の論文「《現代汉语词典》第六版閲読筋記」とは全く異なる視点からの研究ですので、あわせて読んでいただくともっと面白いかもしれません。

「坐（すわる）が“乗”（乗る）になるまで」という論文は、単語の意味展開について考察したもので、「知る」「わかる」とその中国語訳」という論文は翻訳の実践による日中語彙対照研究になるものです。

第4号から、「第一線から」という欄を新しく設けることにしました。本誌は理論研究を重んじる学術誌ですが、実践的なものも重視していることをおわかりいただけたらと思います。今号は顧明耀教授の調査報告を掲載しました。このような調査報告でも結構ですし、教育・研究の現場からの報告や中間報告、研究ノート、読書筆記など、最前線の話題を提供していただければと思っております。読者諸賢からのご投稿もお待ちいたします。

今まで多くの方にご愛読いただいている辞典史（今泉潤太郎）、当該年度の中国語新語・流行語（趙蔚青）、中国における日中語彙対照研究の動向（彭広陸）は、引き続き掲載しております。

なお本誌へのご投稿は、編集作業に時間がかかるため、大変恐縮ですが、毎年8月31日をもって締め切りとさせていただきます。これを過ぎますと掲載は次号以降となりますので、ご理解のほどよろしく願います。（編集委員会）

『日中語彙研究』第4号

2015年3月31日発行

編集・発行 愛知大学中日大辞典編纂所

名古屋市中村区平池町4-60-6 〒453-8777

Tel. 052-564-6122 Fax. 052-564-6222

<http://leo.aichi-u.ac.jp/~jiten/>

組版 株式会社あるむ
